

# 「培い」「育む」秋田スタイル

## 市民の貴重な資産を有効に

現庁舎の地下躯体を分館と共に新たな機能として再生します。  
新庁舎の執務空間はフレキシブルな空間性能を備えた長寿命な計画とします。

### 長く使いやすい執務空間

#### 見通しの良いフロア

- 見通しの良さを重視した執務室は奥行き 18m の柱の無いオープンな大空間とし、窓口エリア、執務エリア、サポートエリアなどに使い分けることにより、極めて自由度の高い「ユニバーサルフロア」となります。
- 執務室は寒冷地にとって理想的な東面採光を主体として、南北面の自然採光、中央の吹抜を介しての採光により、明るく快適な空間となります。

#### サポートエリア

- 執務室の東側の傍には、会議室や打合せコーナー、更衣室など様々な目的に使える自由度の高い共用空間を集約して配置し、執務エリアを完全にサポートします。
- ヘビーデューティーゾーンとして設定することで重荷にも容易に対応します。

#### 窓口エリア

- 見通しの良い廊下に沿ったシンプルオープンカウンターとなり、グリッドプランにより窓口業務の変化にも非常に柔軟に対応でき、市民サービスを向上させます。

#### 将来への対応

- 非常に自由度の高いユニバーサルフロアにより、現状に即した執務配置から、将来は人だけが移動することで、業務の変化に容易に対応できるフリーアドレス化が可能です。
- オフィス家具は高さを抑えアイコンタクトがとりやすい、コミュニティを重視したオフィス空間とすることができ、より快適な執務空間が実現します。

### 今ある資産を最大限に活用する

#### 現庁舎地下躯体の活用

- 現庁舎の地下躯体を地下駐車場として活用し、地下躯体の解体及び埋め戻し工事が不要となり、工期短縮、工事費の縮減が見込めます。
- 地上躯体解体時に発生するコンクリートガラなどは、地中ピットの埋め戻しなどに再利用し、場外搬出を極力抑制します。
- 地下躯体を外気負荷を軽減するクールヒートトレンチとして活用します。
- 現庁舎のドライエリアを利用した消防庁舎への連絡通路を設け、防災対策拠点として消防庁舎との機能連携を強化します。
- 地下空間は災害時の一次避難場所としての活用が可能です。

#### より使いやすくなる分館

- 分館の耐震補強は東西面は壁全体に、南北面は開口部への影響の小さい最適な平面位置に補強を行うことで、明るく開放的な執務空間が可能となります。
- 外部階段の付け替に伴い踊場を利用して、必要に応じて避難動線の設定が可能となり、安全で自由度の高い執務空間の実現が可能となります。
- 暖房負荷低減のため外壁・窓ガラスの断熱・気密性向上を図り、あわせて熱口の大きい蒸気ボイラを高効率温水機に改修することで、環境負荷低減を行います。
- 柱と梁の仕口の溶接状態などを検査・精査することで、構造部材の合理化が可能になり、工事費の圧縮が可能になります。

### 安全と運用に最大限配慮した建替えプロセス

#### 新庁舎建設時期

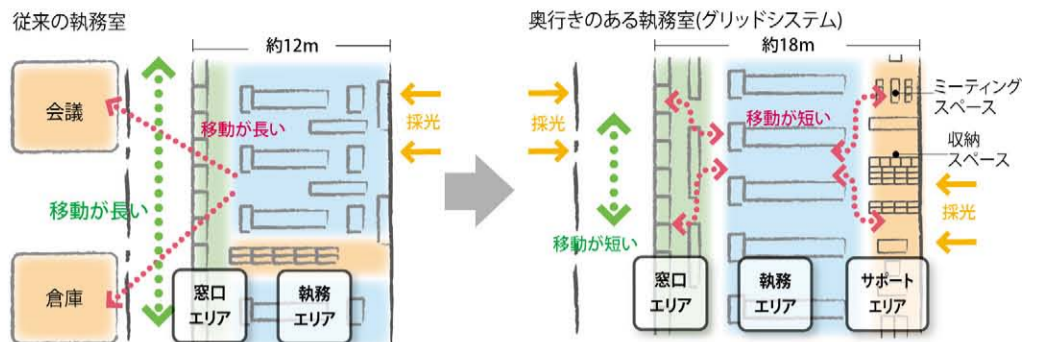
- 工事用車両の出入口を南側と東側の2箇所に設け山王通り側の車両の滞留を回避します。一般車の現庁舎への出入りは現状と変わらず、安全に工事を進めることが可能です。
- 北側道路は分館や研修棟が存在し、また近隣住宅地も隣接していることから、工事用車両の通行は一切行わないようにします。

#### 現庁舎解体時期

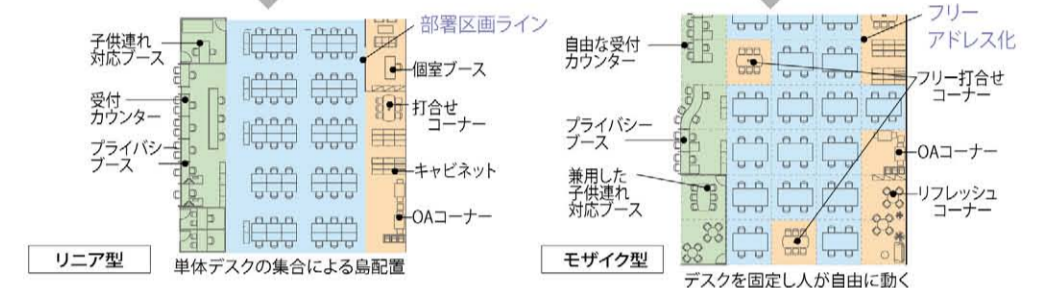
- 解体時の工事車両の出入りは限定的であることから、工事用車両の出入口は南側出入口と兼用とし、周囲での仮設工事を極力抑制します。
- 現市庁舎の地下転用工事を進めながら、同時に外構工事を行うため、合理的に工事を進めることができます。

#### 管理運営段階でのサポート

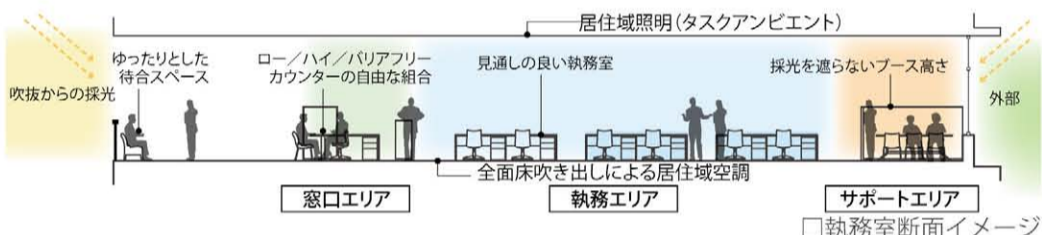
- 竣工後のコミッションング（性能検証）・チューニングを実施し、最適運用を可能とします。
- 運用が軌道に乗るまでの3年間は、管理運営会議等に設計者が参加し、適切なアドバイスをを行うことで、良好な運用を長期に継続可能とします。



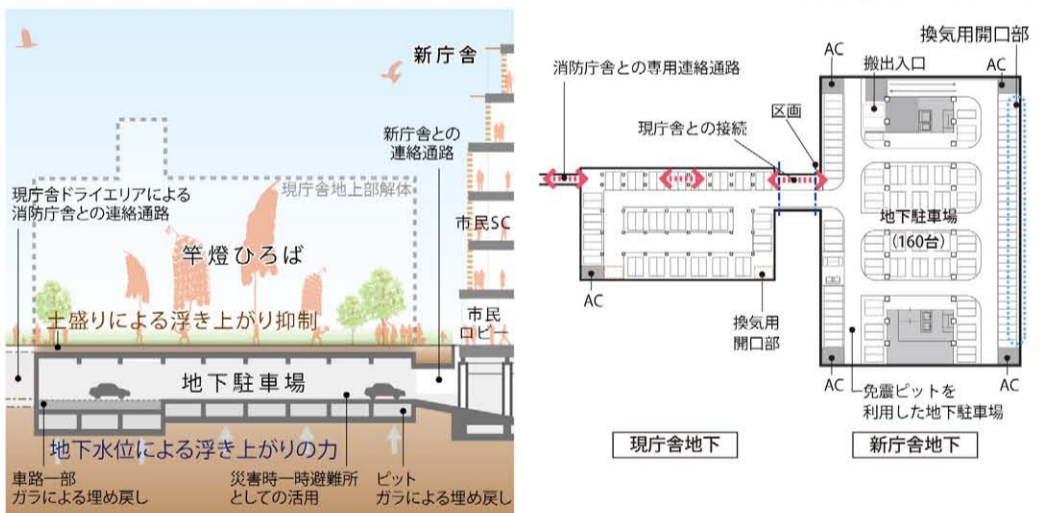
□執務室の考え方



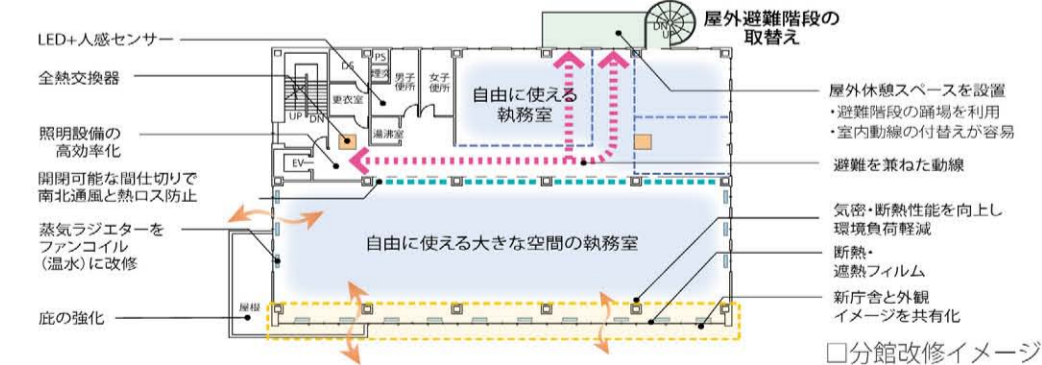
□ユニバーサルフロアによる将来の執務室へ対応



□執務室断面イメージ



□地下駐車場イメージ



□分館改修イメージ



□建替プロセスイメージ